
海外医療通信 2017年12月号 東京医科大学病院 渡航者医療センター

・海外感染症流行情報 2017年12月

(1) 日本で外国人の結核患者が増加

国立感染症研究所の発表によれば、2016年は日本で1万7000人の結核患者が新規に報告されました(病原微生物検出情報 2017年12月号)。このうちの8%は外国生まれの患者で、2006年の4%に比べて約2倍になっています。とくに20歳代の患者の6割近くは外国人です。国別ではフィリピン、中国からの外国人が多くなっていますが、最近ではベトナム、ネパールからの外国人患者の増加が顕著です。

(2) アジアでのデング熱の流行状況

12月は東南アジアでのデング熱の流行が鎮静化しています(WHO 西太平洋 2017-12-5)。1月に入ると、インドネシア、マレーシア、シンガポールは雨が多くなり、蚊が増えるため、注意が必要です。

今年は南アジアでデング熱の流行が拡大し、スリランカで17万人、パキスタンで12万人の患者数になりました(英国 FitForTravel 2017-12-4, WHO 2017-12-13)。インドでも南部で患者数が昨年より大幅に増加しました(ProMED 2017-12-2)。

(3) アジアでのジフテリア流行

バングラディッシュにある「ミャンマーからのロヒンギャ難民キャンプ」でジフテリアの患者が多発しています(WHO 2017-12-13)。昨年11月からの1年間で、小児を中心に800人以上の患者が確認されました。中東のイエメンでも今年8月から11月までに100人以上のジフテリア患者が発生しています(WHO 東地中海 2017-11-19)。同国では内戦が勃発しており、コレラ患者も100万人に達しています(WHO 東地中海 2017-12-19)。

ジフテリアは患者から飛沫感染する病気で、上気道炎をおこすとともに、心臓や神経系の重篤な障害を併発します。ワクチン接種で予防できる病気ですが、内戦などでワクチン接種が受けられない状況になると流行が発生します。なお、今年はインドネシアでもジフテリアの患者が600人近く発生しており、昨年(約400人)よりも増加傾向にあります(ProMED 2017-12-9)。

(4) マダガスカル都市部でのペスト流行は終息

11月末にマダガスカル保健省は、首都アンタナナリボなど都市部で発生していたペストの流行が終息したことを発表しました(WHO 2017-11-27)。マダガスカルでは今年8月からペストの流行が始まり、2500人以上の患者が確認されています(WHO 2017-12-15)。ヒトから飛沫感染する肺ペストが7割以上を占め、アンタナナリボでも患者の発生がみられていました。12月になり都市部での流行は終息しましたが、山岳地帯などでは患者発生がみられており、引き続き警戒が必要です。

(5)北米で季節性インフルエンザの流行が始まる

カナダでは 12 月に入ってから季節性インフルエンザの流行が始まり、患者数が増加しています(WHO 2017-12-11)。ウイルスの種類としては A(H3N2)型が多く検出されており、例年よりも早い時期からの流行になっています。米国でも 12 月中旬に季節性インフルエンザの流行期に入ったことが発表されました(CDC Flu View 2017-12-16)。

(6)ブラジルで黄熱流行のリスク続く

ブラジルのサンパウロ州で 7 月以降、黄熱患者が 2 人発生し、動物の集団感染例も 120 件確認されています(米州保健機関 2017-12-13)。動物の集団感染はカンピーナス周辺で多くみられていますが、10 月中旬にはサンパウロ市内の公園でも確認されました(WHO 2017-11-24)。ブラジルの都市部で動物の集団感染が確認されたのは 1942 年以来です。ブラジルでは今年になり南部のミナス・ジェライス州を中心に黄熱の流行が発生し、6 月までに 779 人の患者が発生していました。今後もブラジルに滞在する際には、黄熱のワクチン接種を推奨します。

・日本国内での輸入感染症の発生状況(2017 年 11 月 6 日～2017 年 12 月 10 日)

最近 1 ヶ月間の輸入感染症の発生状況について、国立感染症研究所の感染症発生動向調査を参考に作成しました。出典:<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr-dl/2017.html>

(1)経口感染症:輸入例としては細菌性赤痢 5 例、腸管出血性大腸菌感染症 2 例、腸・パラチフス 4 例、アメーバ赤痢 8 例、A型肝炎 1 例、ジアルジア症 1 例が報告されています。前月と大きな変化はみられていません。

(2)蚊が媒介する感染症:デング熱は 14 例で、前月(18 例)からやや減少しました。感染国は前月と同様にインドが 4 例と最も多く、カンボジアが 2 例で続いています。デング熱の今年の累計は 239 例で昨年同期の 327 例に比べて大幅に減少しています。マラリアは 4 例で、アフリカでの感染が 3 例、南米での感染が 1 例でした。ジカウイルス感染症は 2 例でフィリピンとメキシコでの感染でした。ジカウイルス感染症は今年の累計は 5 例ですが、そのうちの 2 例が 11 月～12 月の発生になります。

(3)その他:風疹が 1 例で、感染国はフィリピンでした。マダニに媒介されるライム病が 1 例発生しており、北欧のフィンランドでの感染でした。

・今月の海外医療トピックス

(1)ペットショップの子犬からのキャンピロバクター感染に注意

今年も残すところ数日。来年は成年ですが米国 CDC のサイトに表記の注意が掲載されています。詳細は原文を参照願いますが、2017 年 12 月 12 日の時点で米国の 17 の州でペットショップの子犬が原因と思われるキャンピロバクターの感染 97 例が報告され、そのうち 89 例に聞き取り調査がなされました。98%が発症から 1 週間以内に当該のペットショップで子犬と接触があり、21 例はその従業員とのことです。キャンピロバクターは薬剤耐性が問題と

なっていますが、上記の 12 例でアジスロマイシン、シプロフロキサシン、クリンダマイシン、エリスロマイシン、ナリジクス酸などに耐性を認めているようです。

子犬に罪はありませんが、ペットと接触した際は手洗いを励行し、過剰な接触は避ける必要があります。(古賀才博)

<https://www.cdc.gov/campylobacter/outbreaks/puppies-9-17/index.html>

(2)WHOが Dengvaxia に使用制限

サノフィ社が製造している Dengvaxia は、現在、世界で販売されている唯一の Dengue 熱ワクチンです。日本では承認されていませんが、世界 19 カ国で承認され、接種が行われています。このワクチンに関して、12 月 13 日に WHO は、「過去、Dengue 熱に感染したことがない人には接種しないように」との公式見解を発表しました。このワクチンを「Dengue 熱に感染したことがない人」に接種した場合、2 倍以上の頻度で、Dengue 熱感染時に重症化がおきることが明らかになっています。一方、「Dengue 熱に感染したことがある人」に接種した場合は、Dengue 熱再感染時の重症化を減らすことができます。日本から Dengue 熱流行地域に渡航する人の多くは、過去、Dengue 熱に感染したことがないと予想されるため、日本国内でこのワクチン接種の適応は少なくなるものと考えます。(濱田篤郎)

<http://www.who.int/medicines/news/2017/WHO-advises-dengvaxia-used-only-in-people-previously-infected/en/>